

第 221 回昭和の森自然観察会

春をいろどる花

八木千里(千葉市)

日 時：2010 年 5 月 9 日（日）13 時～15 時 天気：快晴

参加者：25 名(大人 23 名 子ども 2 名) 指導員 20 名

担当指導員：盛一昭代 八木千里 川北紀子

五月は何といっても木の花が咲き誇りまさに春をいろどっています。「身近な花木を楽しもう」の副題通り、街路樹や公園でよく見る木を昭和の森で触ったり、虫眼鏡で覗いたりしました。〈マロニエ通り〉、〈さくら通り〉など街路樹は親しまれています。大気汚染に強い木、潮風に強い木、防火に役立つ木などメリットやデメリットもあります。

ツツジ ハナミズキ モミジ サクラ マツ イチョウ マテバシイ トチノキ
ホオノキ チャンチンの 10 本を選んで、クイズを出して答えを参加者と一緒に探します。いろんな質問や意見が出て楽しく進める事ができました。

前日までの寒さとはうって変わって快晴、気温も 27℃まで上がり、花も開きチョウやムシも出てきてくれました。

＜参加者が感心した事＞ツツジの蜜標とチョウの関係。

サクラの蜜腺にアリをよんで毛虫がつかないようにしている事。

サクラによって蜜腺の位置が違う事。虫眼鏡で以上をよく観ました。

＜雄、雌で驚き＞マツの雄花をポンと叩くと花粉が飛んだ、赤く丸く付いているのが雌花、と去年の実も確認できました。イチョウの雄木と雌木を探す、では幾つか意見が出ました。正確なのは雄花と雌花を探す事で、初めにサンプルを見せて探しました。

小さいし、他の雄花も落ちているし…で、見つけた時は大喜びで木を判定できました。

＜葉の大きさにビックリ＞トチノキはどれが 1 枚の葉？ 葉柄の長さと落葉の仕方、ホオノキの葉の大きさと朴葉焼きの話。枳餅の話と、枳の実は大きく固いので街路樹では落ちてくると危ないので道路を遮断して実を落とす所もあるとか。

＜どんな香り＞チャンチンの木は香る椿と書きますが、葉を揉んで匂いを嗅いでもらいました。皆さん興味津々でしたが、いやな香りと言った人はいませんでした。

この他に、イヌシデの果穂が沢山ついていて触ると実も随分大きくなっていました。モミジもイヌシデも秋に種が飛んでいくのを見たいと言ってくれました。

トチノキ、ベニバナトチノキ、ハクウンボク、オオデマリ、ツツジが満開でした。マテバシイは雄花もまだで匂わないのが残念でしたが、スダジイ、マテバシイのドングリは美味しいという話をしました。サクラ類、カエデ類、ケヤキ、ツツジは大気汚染に強い事。マテバシイ、タブノキ等は潮風に強い事。サンゴジュは防火に役立つ等の話が伝わったか、花のメカニズムの方が先行したのでは…と、私にとって心配で反省点でありました。

参加者の感想は

①見慣れている木でも知らない事がわかった。

②花の仕組みがわかった。

③じっくり観られて名前を覚えた。

五感を使って観察出来ましたが、まだ多くの花が咲いていて参加者はもっと他の花にも心が残ったようでした。

